

当たり前ではない水

奈良市立富雄第三中学校三年

山田 柚季

「どんなに汚くても、この水を飲むしかない
」。

と、子どもが言いました。みなさんは汚れた水を飲み、命を落としてしまう子どもが世界にはたくさんいることを知っていますか。開発途上国の多くの人々は安全な水を得るのが難しい状況にあります。世界では二〇二二年時点で、二十二億人の人が安全に管理された飲み水を利用できずにいます。私は、この事実を知って、言葉にできないほどの衝撃を受けました。

それは、小学六年生のときのことです。テレビで世界の水不足問題や水不足の国について放送されているのを見ました。水不足の国の人々は、水道が使えないことが多いので、遠くの川まで水を汲みにいく必要があります。多くの家庭では水汲みが子どもの役割となっていています。私と同じ年齢の子や、それより小さい子が

、毎日数時間もかけて歩き、水汲みに行く姿を見て胸が苦しくなりました。しかも、子どもたちが苦勞して手に入れた水は飲み水に適さない汚れた水であることも少なくないということです。水不足の国では、命を落とすかもしれない、でも生きるためにはこの水を飲むしかないという矛盾を抱えながら水汲みに行く子どもたちの複雑な思いがあることを知りました。日本では、蛇口をひねるとすぐに安全できれいな水が出て、当たり前のように顔や手を洗えて、おいしい水が飲めます。しかし、それはとても恵まれていて、当たり前ではないということに気づきました。これをふまえて私たちは、もつとこの問題について知って、この現状を少しでも変えていかなければならないと思いました。そこで私は、この問題を解決するために自分にもできることがあると思い、考えてみることにしました。一番に思い浮かんだことは節水を心がけることです。例えば、歯磨きをする際は水を出しっぱなしにしないで、水をコップに汲ん

で歯磨きをする、洗濯はまとめて行つて回数を減らす、お風呂のお湯の量を減らす、などです。節水を心がけることは水資源のためにもなるし、水道代の節約にもなつて一石二鳥だと思います。その他にも理科で習つた水質汚染を防ぐことが水不足問題の解決につながると思います。そのためにできることは、汚い水をできるだけ捨てないようにすることです。川を汚す要因に家庭から出る生活排水があるので、私たちはなるべく環境負荷の一つである川を汚さない努力をする必要があります。例えば、調理器具や食器は新聞や不要な布で油汚れを拭き取ってから洗う、シャンプーを使いすぎないようにする、ということです。これらの取り組みを行うことで、世界の水不足を少しでも減らすことができ、未来の水資源を守ることにつながるのではないかと考えます。

あのテレビがきっかけで、世界の水不足問題を解決するために何ができるのかを深く考えることができたと思います。ただ考えるだけで

は何も変わらないです。一人一人が考えて行動していくことが大切だと思います。だから、私もこれから考えた取り組みを実践していきま
す。そして、水のありがたみを改めて感じると
ともに、蛇口をひねればすぐにおいしい水が出
る環境にいる自分はとても幸せだと感じまし
た。世界には今もなお、安全に管理された飲み
水を利用できない人がたくさんいます。私はこ
れからこのことを家族や友達など多くの人に
伝えていきたいです。まずは、この問題を多く
の人に知ってもらうことが大切だと思うから
です。今すぐこの問題を解決することは難しい
かもしれませんが、これから私も含めてたくさ
んの人がこの問題に気づき、行動していくこと
で、少しずつ可能性は見えてくると思います。